AMCoR
Asahikawa Medical University Repository http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/

日本遠隔医療学会雑誌（2014.05）10巻1号ー遠隔医療を推進する旭川医科大学の取り組み（特集）:34～35.

# 北海道メディカルミュージアムによる地域貢献

守屋　潔、吉田晃敏

# 北海道メディカルミュージアムによる地域貢献

守屋 潔 [1)2)]　吉田 晃敏 [1)3)]

[1)] 旭川医科大学病院遠隔医療センター　[2)] 旭川医科大学医工連携総研講座
[3)] 旭川医科大学眼科学講座

---

# Hokkaido Medical Museum for Regional Contribution

Kiyoshi Moriya[1)2)]　Akitoshi Yoshida[1)3)]

[1)] Asahikawa Medical University Hospital Telemedicine Center
[2)] Department of Medicine and Engineering Combined Research Institute, Asahikawa Medical University
[3)] Department of Opthalmology, Asahikawa Medical University

**Abstract：**In Hokkaido, medical resources are concentrated in a few major cities and as a result, those living in the other areas have less access to up-to-date medical and healthcare information. Under the circumstances, Asahikawa Medical University has produced and been broadcasting online video programs named “Hokkaido Medical Museum” featuring medical topics in collaboration with local municipalities based on Internet since 2003.
“Hokkaido Medical Museum” connects municipalities including Asahikawa city, medical institutions and nursing care facilities in Hokkaido, allowing users to interact with instructors on a real-time basis. Furthermore, local residents are offered an on-demand service where they can access video recordings of past lectures anytime, anywhere.

**Keywords：**e-learning, on demand video service for healthcare, tele-health education in remote rural area

## 要旨

北海道は医療資源が一部の都市に偏在しているため周辺地域の住民は最新の医療健康情報に接する機会が少ない。そこで旭川医科大学では自治体と連携して遠隔医療技術を応用してインターネット中継による医療番組を制作、配信している。旭川市をはじめ道内自治体、医療機関、介護施設などを結びリアルタイム、双方向で講師と対話ができるほか、過去の講演映像を住民がいつでもどこからでも視聴できるオンデマンドのサービスも提供している。

## 1. はじめに

北海道には、国土の５分の１を占める広大な大地に560万人が暮らしているが、札幌や旭川など一部の都市に医療資源は偏在しており、地方の住民にとって医療や健康に関する情報に接する機会が少ないのが実情である。一方でインターネットの普及で情報は容易に入手できるようになったが、ネット上では多種多様な情報が溢れ利用者にとって必要な情報にたどり着くのが難しく、たどりついた情報によっては誤った認識を助長する事もある。そこで旭川医科大学では遠隔医療技術を応用して、住民がどこに住んでいても病気や健康に関する正しい情報をタイムリーに届けられるサービスを行っている。

## 2. サービス開始の経緯

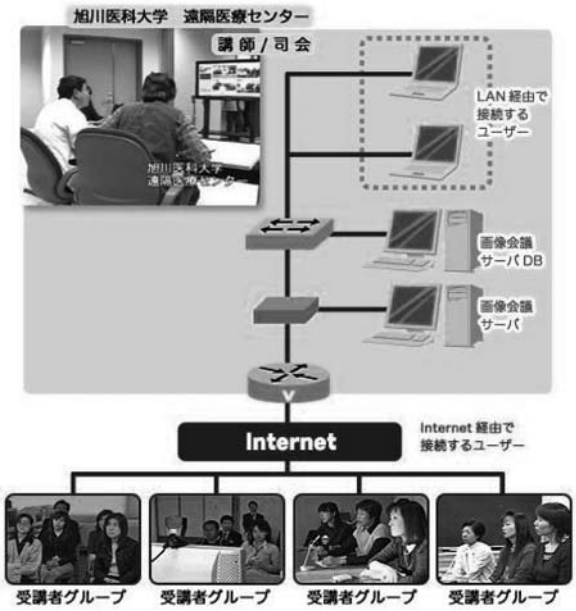
「北海道メディカルミュージアム」は旭川医科大学の医師、看護師を講師とするインターネット配信による医療・健康情報番組である。本構想は平成15年３月に「上川中部圏地方拠点都市地域情報通信高度化調査研究会」で提案され、旭川市とその周辺８町とで、「北海道・上川中部圏自治体と旭川医科大学との連携協議会」を組織して実現化の検討を進めてきた。そして、平成15年10月にトライアル開催を実施して以来、現在まで定期開催している。北海道の地域性を考慮した健康情報を多く提供する施設、インターネット空間におけるあたかも博物館のような「北海道健康情報館」を目指すことから「北海道メディカルミュージアム」と命名した[1)]。

## 3. 方法

「北海道メディカルミュージアム」のシステム構成を【図1】に示す。旭川医大病院遠隔医療センターにスタジオを設けて番組を制作している。この番組を本学が独自に開発した多地点リアルタイム双方向配信システムを用いて全道各拠点に中継している。参加拠点側はインターネットに接続できるPCがあればよく、Webカメラ、マイクを装備すれば会場から講師への質問、意見交換がリアルタイムに行える。接続先は同時25拠点までを可能とし地域によって回線帯域が十分ではないため画質、音質とも回線品質に合わせて可変できるようにしている。

## 4. 開催実績

当初は旭川周辺市町向けサービスとしてスタートしたが、その後北海道教育庁、北海道保健福祉部と連携することを通して現在では参加拠点は道内全域に広がっている。




【図 1】システム構成

平成 26 年 3 月現在における参加拠点は、旭川市、留萌市などの保健福祉センターや道立羽幌病院、広域紋別病院などの医療機関、岩見沢ケアハウスなどの介護施設など 15 か所となっている【図 2】。

現在の運用は複数名の住民の参加が可能な公的機関や公共施設を対象としており、各拠点ごとの集客、運営は各自治体の保健師、医療機関、NPO などが担っている。各拠点ごとの参加人数は 10 ～ 30 名ほどで旭川市内会場には 70 ～ 100 名が集まる。参加者の大半は中高年齢層である。現時点では個人での参加は認めていないがこれは本番組を教材として各々の拠点における保健師等を中心とした健康福祉活動に役立ててもらいたいからである。

「北海道メディカルミュージアム」は、開始以来これまで隔月ごと 41 回開催してきた。テーマはその時々での旬な話題や参加者からのアンケートによって決めている。これまでに開催されたテーマで最も多かったのは「がん関連」（7 回）で次いで「眼科」（6 回）、「糖尿病関連」（4 回）、「脳外科関連」（4 回）、「循環器内科」（3 回）などであるが「白樺花粉症」や「雪上、氷上での転倒予防」など北海道特有のテーマも取り上げている。本年も隔月ごと 6 回の開催を予定している。

【図 2】参加拠点の分布

## 5. オープンインターネットカレッジ

リアルタイムの番組配信は、決められた場所・決められた時間に集まることのできる一部の地域住民しか参加できないという課題があった。そこで過去の番組映像をビデオサーバに蓄積しインターネットにつながる PC があれば個人が自宅からでも自由に利用できるオンデマンドビデオ配信サービス「オープンインターネットカレッジ」（http://oic.asahikawa-med.ac.jp）を平成 22 年から開始している。平成 25 年には IT に不慣れな住民の方でも簡単に操作できる専用端末を独自開発し各地の公共スペースに設置している【図 3】。

【図 3】ビデオライブラリ専用端末

## 6. 今後の展望

現在は、専門医による公開講座の配信が中心となっているが、今後は遠隔地と大学を結んで健康相談や小中学生向けの公開授業など、医療健康情報の「ミュージアム」にふさわしいさまざまな活用法を検討していく計画である。

## 参考文献

1)　吉田晃敏．格差なき医療．講談社，2007.